

■ 細胞骨格関連抗原を認識する自己抗体

細胞骨格はアクチンフィラメント (5 ~ 6 nm 径)、中間径フィラメント (約 10 nm 径)、微小管 (約 25 nm 径) の3種のタンパク質線維からなります。アクチンフィラメントはアクチンと様々な結合タンパク質から構成されます。中間径フィラメントは細胞特異性があり、上皮細胞である HEp-2 細胞にはサイトケラチンとビメンチンが存在します。チューブリンからなる微小管は分裂装置を構成しています。

抗アクチン抗体

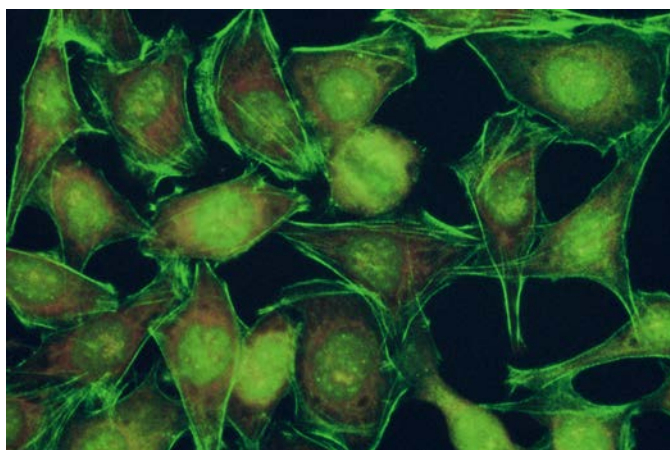


photo 59

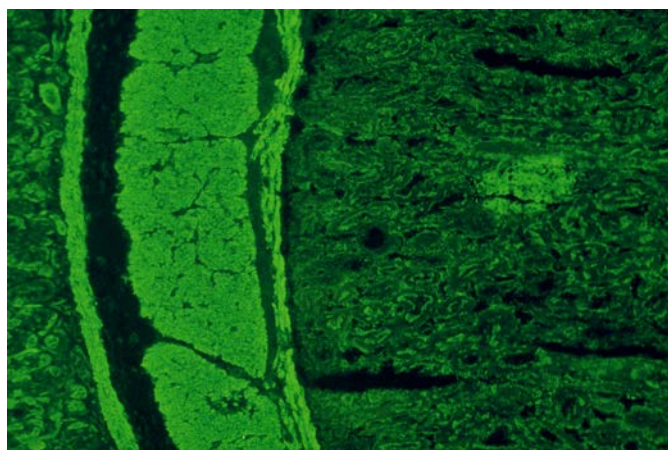


photo 60

ラット腎・胃切片の像。腎の血管壁と尿管の基底膜が染色される。また胃の平滑筋層および粘膜筋板が染色される [フルオロ AID-1 テスト (Code. No. 4250)]

| | |
|-------|----------------------------|
| 染色型 | 細胞質全域にわたるアクチンフィラメントが染色される。 |
| 対応抗原 | アクチン (34kD) |
| 確認法 | 蛍光抗体法、ELISA 法 |
| 臨床的意義 | AIH |
| 文献 | 69、70 |

アクチン結合タンパク質であるトロポミオシンやピンキュリンに対する自己抗体によっても、抗アクチン抗体様の染色がみられる。【文献 1】

抗サイトケラチン抗体

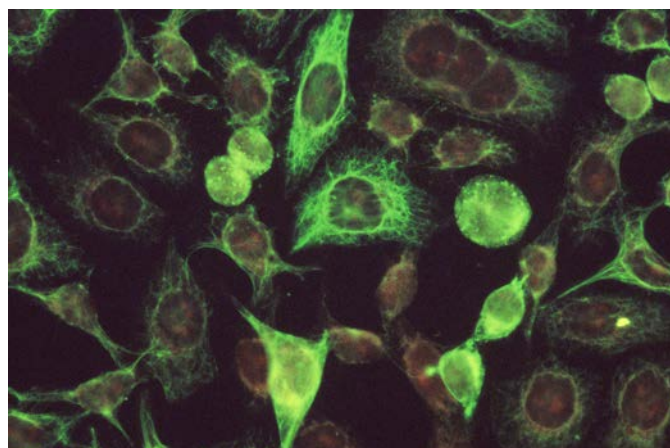


photo 61

| | |
|-------|---|
| 染色型 | 細胞質が網目状に染色される（細胞により染色の強弱がある）。また分裂期細胞には顆粒状の染色をみとめる。 |
| 対応抗原 | サイトケラチン（40～52kD の中間径フィラメント） |
| 確認法 | WB 法 |
| 臨床的意義 | RA で比較的高率に出現するが、他の疾患でも認められる。RF 陰性の初期 RA に検出されたという報告がある。 |
| 文献 | 71 |

抗ビメンチン抗体

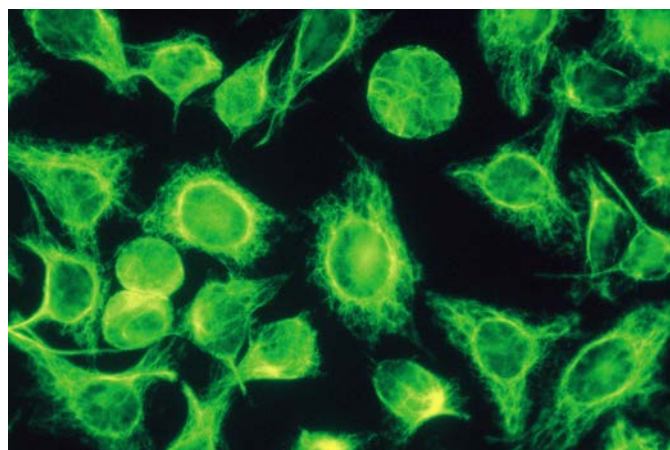


photo 62

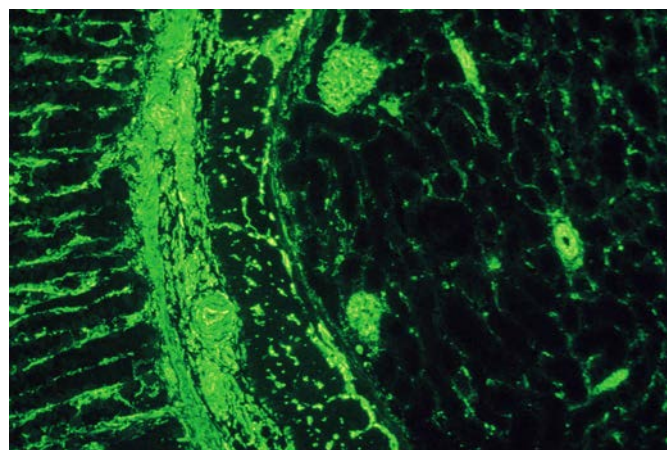


photo 63

ラット腎・胃切片の像

腎の血管壁と胃粘膜が染色されるが、抗アクチン抗体の像とは異なっている [フルオロ AID-1 テスト (Code. No. 4250)]

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 染色型 | 細胞質がクモの巣状に染色される。核周辺部がより密集して染色される。 |
| 対応抗原 | ビメンチン（53kD の中間径フィラメント） |
| 確認法 | WB 法 |
| 臨床的意義 | RA、肝疾患など。慢性疲労症候群での出現報告あり。 |
| 文献 | 48、72 |